

日本人英語学習者による意見文の論理展開 —言語形式とその機能に着目して—

奥切恵（東京医療保健大学）m-okugiri@thcu.ac.jp

伊集院郁子（東京外国語大学）ijuin@tufs.ac.jp

小森和子（明治大学）komokazu@meiji.ac.jp

<Abstract>

This study examines English opinion essay of six native speakers of English and seven Japanese speakers to find out the difference and similarities in rhetorical patterns and linguistic forms. The results show that English native speakers have a tendency to first present background information to support their main idea then to state their argument/opinion in the later section of their writings. On the other hand, the learners showed a strong tendency to state their argument in the first section. Furthermore, our detailed analysis demonstrates redundant discourse markers by the learners, which is likely to be attributed to the learners' strategy to keep their writings more coherent and the effect of English and Japanese writing instruction.

【キーワード】：主張の位置、ディスコースマーカー、結束性、意見文、第二言語としての英語

1. はじめに

本研究の目的は、日本人英語学習者が英語意見文を執筆する際の論理展開を明らかにし、どのようなディスコースマーカー(Schiffrin, 1987)を用いて結束性を保とうとしているのかを、英語母語話者の執筆した意見文と比較することによって、検討することである。

2. データ

意見文の執筆者は日本の大学で英語を学ぶ日本人英語学習者(TOEIC600 点以上、あるいは、英検 2 級以上)7 名、およびアメリカや日本の大学に在籍する英語母語話者 8 名である。いずれの執筆者も、同一の課題文を読み、辞書などは使用せず、400 ワード程度で 1 時間以内に執筆するよう課された。課題文に記載されている指示は、次の通りである。

“Currently, people worldwide are able to use the Internet. Some people say that since we can read the news online, there is no need for newspapers or magazines, while others say that newspapers and magazines will still be necessary in the future. Please write your opinion about this issue.”

3. 分析の結果と考察

分析の結果、日本人英語学習者(NNS)の執筆した英語意見文には、文章構成を表すディスコースマーカーが多用されていることがわかった。意見文において、NNS の多くは、冒頭で主張(インターネットニュースと、新聞・雑誌の是非)を述べてから、主張を支える根拠を複数列挙していたが、根拠を記述している各段落の冒頭で、*First...*、*Second...*、*Third...*のような形式を用いていた。また、結論を述べる段落の冒頭には、*In conclusion...* や *To sum up...*など、当該段落がまとめであることを表す言語形式が使用されていた。このようなディスコースマーカーの使用について、NNS に事後インタビューで尋ねたところ、必修科目の大学の英語のライティングクラスで学んだ書き方であることがわかった。

一方、英語母語話者(NS)はこのような表現は使わず、前の文章との結束性を意識しながら、以下の(1)、(2)のように、*now that*などの語句を用いて主張を支える根拠の背景的情報を示したり、*still*といった副詞などを使用することにより、結束性を保つ工夫をしていることがわかった。

英語母語話者(NS)の例

- (1) Now that many people in developed countries are starting to use more tablets and personal computers, people are able to receive information by a press of a button.
- (2) With technology in the form of phones, tablets, computers and now televisions, we now have many forms of technology that would allow the majority to read items from a newspaper or magazine online on the internet. Plus all libraries now have all forms of electronic data for anybody to use to look up this information for those that still do not own any of this technology.

また、NNS データには、NS とは異なる用法のディスコースマーカーが認められた。以下の(3)、(4)のように、NNS は「例示」と「仮定」を表す場合のいずれにも、*for example*を使用していた。一方、NS が *for example*を使うのは、(5)または NNS の(3)のように、具体的な実例を挙げる例示の場合のみであった。

(3) 「例示」の例(NNS)

Many people uses twitter and facebook and they write their daily life, for example, it might be what they enjoyed and what they irritated.

(4) 「仮定」の例(NNS)

Second, in internet, we can access much information anytime anywhere if you want it. For example when I talk to my friend about same topics but they don't know them, I can look up them on internet soon.

(5) 「例示」の例(NS)

Over the last 20 years as technology has improved, the amount of data that an average person receives

has multiplied by an extraordinary amount. For example, many people around the world are starting to use different social media sites and this allows people to give and receive information in real time that was not allowed before when all of the media was on printed-paper.

このような NNS の「仮定」の使用は、*for example* の日本語の相当表現「例えれば」の意味用法の影響ではないかと推測される。日本語の「例えれば」は、具体例を示す場合だけでなく、「例えれば、X だったとしよう」のように、状況を仮定的に設定するにも用いられる。すなわち、(4)のような NNS の*for example* の使用は、母語の日本語の「例えれば」の意味用法を、英語にそのまま転移させた結果の可能性がある。このことを確かめるために、『明鏡国語辞典』、『精選版日本国語大辞典』、『現代副詞用法辞典』、『教師と学習者のための日本語文型辞典』で、「例えれば」の意味用法に関する記述を確認したところ、日本語の「例えれば」の意味用法は、①「例示」：既出の事柄について詳しく説明するために具体例を挙げる、②「比喩」：比喩に用いる実例を挙げる、③「仮定」：仮定に用いる実例を挙げる、の 3 種にまとめられた。一方、英語の*for example* を『Oxford Dictionary of English』と『The American Heritage Dictionary of the English Language』で調べてみると、典型例を挙げる「例示」の意味用法のみであった。さらに英和辞典の『小学館ランダムハウス英和辞典』と『研究社新英和辞典』には、「たとえば」という訳が記載されているにとどまっている。

そこで、日本語母語話者が「例えれば」をどのように使用しているかを確認するために、試みに日本語母語話者の執筆した日本語の意見文に見られる「例えれば」の使用と比較することにした。分析に用いた日本語母語話者の日本語意見文は、本研究と全く同様の方法で収集されたデータであり(伊集院, 2010)、相互に比較可能なものである。ファイル数は 134 編あり、当該データから「例えれば」を抽出したところ、35 例が見つかった。この 35 例について、執筆者 3 人で確認したところ、35 例のうち 28 例(80%)が「例示」、7 例(20%)が「仮定」であり、「比喩」の例は 0 例であった。「例示」が多くを占めており、(6) のように、前文の根拠の具体例を表す例示に使用されているものなどがあったが、「仮定」については、(7) のように、状況を仮定して議論を深めていくとする用例が見られた。

(6) 「例示」の例

PC でニュースサイトを見る場合などは割合新聞、雑誌と変わりのない情報量を手にすることもできようが、ポータブルメディア、例えれば携帯電話などでは、新聞、雑誌と比べてかなり小さな情報量しか扱うことができない。

(7) 「仮定」の例

しかし、新聞や雑誌を読むことの意義、というものは、自分の知りたい情報を手に入れるだけではありません。例えれば、自分が昨日のプロ野球の結果を知りたいとき、新聞を広げるとします。スポーツ欄を読むためには、ページをめくってスポーツ欄を探さなければなりません。

一方、NNS の*for example* の使用例は、前掲(3) や(4)を含め、合計 6 例あり、それらの意味用法を

確認したところ、「例示」と「仮定」が3例(50%)ずつであった。また、NSの*for example*の使用例は2例のみで、2例(100%)ともに「例示」であった。以上の結果から、NNsは母語である日本語の「例えば」の意味用法を英語の*for example*に転移し、英語で*for example*を产出する際に、日本語の「例えば」がフィルターとなっている可能性が推測される。

4.まとめと今後の課題

NNsのディスコースマーカーの利用は、教育の影響やそれに基づくNNsのビリーフである可能性もあるが、こうしたディスコースマーカーを使用することで、第二言語の限られた言語知識で意見文を執筆する限界を補っていると考えることもできる。

本研究は、現在構築中の意見文データベースの一部に基づく分析であり、データ数が十分ではなかった。今後は、現在収集中である英語NS及びNNsデータも分析に加え、英語NSと日本語NSによる意見文及びNNsによる英語の意見文のディスコースマーカーの出現の相違などを探し、母語の影響や第二言語の習熟度との関連などについて検討していきたい。

謝辞

ロシター・ポール先生、岡秀夫先生、ガリー・トム先生、野口裕之先生、研究についてのコメントをありがとうございました。またマリイ・クレア先生、青山友子先生、岩崎しまこ先生、中根郁子先生、吉田真樹先生、その他関係者の先生方には、追加データ収集において多大なご協力を頂きましたことをお礼申し上げます。本研究はJSPS科研費25370705の助成を受けたものです。

参照文献

- グループ・ジャマシイ. 1998.『教師と学習者のための日本語文型辞典』. 東京:くろしお出版
飛田良文・浅田秀子. 1994.『現代副詞用法辞典』. 東京:東京堂出版.
北原保雄. 2010.『明鏡国語辞典』第二版. 東京:大修館書店.
Schiffrin, Deborah. 1987. *Discourse markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
小学館(編).2006.『精選版 日本国語大辞典』. 東京:小学館
Stevenson, Angus. 2010. Oxford Dictionary of English (3rd. edition), Oxford, Oxford University Press.
The American Heritage Dictionaries editors. 2011. The American Heritage Dictionary of the English Language (5th edition), Boston: Houghton Mifflin Harcourt.

使用データベース

伊集院郁子. 2010. 日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース.

http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai_data1.html